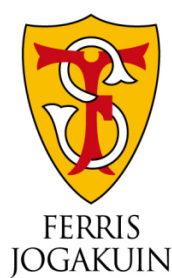


フェリス女学院

2014 年度事業計画書（概要）



2014年度の事業計画を策定しました。

フェリス女学院の独自性は、その建学の精神「キリスト教の信仰に基づく女子教育」と教育理念「For Others」にあることは、フェリス女学院の関係者が夙に意識しているところです。私たちは、その独自性を意識し、それを社会に示す努力を重ねるべきでしょう。このような観点から、2014年度においても、建学の精神に即して教育理念を具体的な実践活動として展開することに心がけます。

大学では、キリスト教精神と For Others の実践を教育課程のなかで実現するため、キリスト教教育関連科目の教育内容を組織的に再検討します。そのうえで、フェリス女学院大学に相応しい独自のキリスト教教育を展開するために必要な組織を構想することになっています。併せて、キリスト教文明／文化に関する学術研究の成果を教育へと反映させるシステムも創出します。このような教育構想を支えるために大学に必要とされている事業を展開します。

中学校・高等学校では、すでに策定したグランドデザインに基づく事業を展開することになっています。事業が目差す方向の一端を第二期工事紹介の形で明らかにします。第二代校長ブースは、当時公立学校に先駆けてフェリスに校医をおき、体操の授業のために運動部屋を設置しています。そのうえで、体育の授業に多くの時間を割き、体育重視の伝統を形成しました。本年度に完成する新体育館により、創設時における宣教師の構想が今の時代に充実した形で実現することになります。旧短期大学の校舎を継承して教育の場としてきた2号館の建て替え工事を進めます。中学校・高等学校の生徒の教育に相応しい教育環境の創出によりグランドデザインの実現に向けて着実な一步を踏み出すこととなります。特に、12号館に準備する200人収容の小チャペルを用いた教育には期待できます。

学院全体としては、教育を支える職員の主体的な働きを助け、その力をまとめ上げることができるようなマネジメントを構想し、その実現に向けて努力します。

フェリス女学院事業計画

フェリス女学院は、建学の精神「キリスト教の信仰に基づく女子教育」とそれに基づく教育理念「For Others」のもと、140年以上にわたって受け継いできた教育をこれからの時代にふさわしく発展させていこうとしている。その具体的な形がグランドデザインであるが、中高グランドデザインが既に理事会で承認され、大学グランドデザインは2014年度中に方向性を固めようとしている中で、このグランドデザインの策定と実施を推進するために、財政基盤を整え、人的態勢を強化し、さらに優先順位の高い事業に資源を集中するための体制を整えていく。それらの整備を行っていくために、「経営基盤の強化」、「組織体制の強化と業務改善」を2014年度の事業として掲げる。また、教育環境を維持向上させていくために、「施設設備の整備・改修工事」に取り組む。

(1) 経営基盤の強化

1 第2期経営改善計画の実施

【当該事業の最終目標】

経営改善計画は、教学と財務という両側面から経営的視点によって学院の維持発展を支えるため、具体的な目標を5年ごとに設定している。

第2期経営改善計画の最終目標は、教学面ではグランドデザインの策定と実施、財務面では2011～2015年度の5年間、帰属収支差額の安定的な黒字確保を毎年達成することである。

【計画】

・教学に関する領域

中高グランドデザインは、2013年度に理事会で承認された。大学グランドデザインは、2013年度に設置された高等教育再編委員会で検討を重ねており、2014年度中に方向性を固める。

・財務に関する領域

2014年度においては、学院全体として、帰属収支差額比率8.0%（評価3）を目差す。

・2016年度以降の財政計画の策定

第2期経営改善計画終了後の中長期的な財政計画について、グランドデザインや施設設備整備計画等をふまえて検討を開始する。

2 第2号基本金組入計画

【当該事業の最終目標】

大学キャンパス施設設備拡充整備を目的として計画的に第2号基本金として組み入れる。

中高は、第二期工事関係資金として2013年度までに11.8億円の組入を行った。2013年度6.3億円、2014年度5.5億円を第1号基本金に振り替える予定である。

【計画】

・大学キャンパス施設設備拡充整備資金計画

5000万円組入

(2) 組織体制の強化と業務改善

1 人事労務体系・諸制度の整備

【当該事業の最終目標】

時代と社会の要請に柔軟に対応し、学院全体の人事関係諸制度の整備を進める。コンプライアンスのもとでの働きやすい職場環境づくりの観点から人事労務・安全衛生に関する諸制度を整備する。

【計画】

- ・法改正等に対応した人事労務関係諸制度の整備・検討
- ・人事労務の観点からの職場環境整備に向けた取組の検討・実施
- ・産業医との連携に基づくメンタルヘルスケア体制の充実

2 職員力の向上に向けた取組

【当該事業の最終目標】

学院運営力の強化を目的として、その中心的な担い手である職員力(=資質・能力)の向上を図る。具体的には「建学の精神」「教育理念」のもと、職員に求められるミッション・役割を十分に浸透させ、一人ひとりが力を発揮し職務を遂行できるような組織体制づくりを実現する。

【計画】

- ・人材育成の方針「目差すべき職員像」のあり方の検討
- ・活力ある職場づくり施策の検討と実施に向けた取組
- ・採用計画の立案と実施
- ・職員研修の実施と拡充
- ・人事制度の検証に即したデータ等の整備に向けた検討

3 業務合理化・効率化の推進

【当該事業の最終目標】

業務合理化・効率化を学院全体として推進し、外部の専門性も活用しながら専任職員がコア業務に注力し、学生・生徒、教職員に対してより質の高いサービスを提供することを目差す。

【計画】

- ・経理業務効率化プロジェクト(継続)
- ・印刷業務委託の見直し(継続)
- ・給与業務アウトソーシングの見直し(継続)

(3) 施設設備の整備・改修工事

【計画】

学生・生徒の教育、学習、生活環境の充実のため、施設設備の整備・改修工事に取り組む。また、中高は第二期工事の第二段階として新2号館建設工事に着手する。

◆大学 緑園キャンパス

- ・チャペル改修工事
- ・1、7、8号館洗面所改修工事
- ・体育館メインフロア天井照明のLED化
- ・4号館2階学生ホールの改修
- ・外灯の改修及び増設

◆中高

- ・新体育館建設工事（継続）
- ・新2号館建設工事
- ・12号館外壁・屋上大規模改修工事
- ・1号館外壁鉄平石剥落防止工事
- ・カイパー講堂音響整備

大学では、2013-2016年度の4年間を単位とする中期計画を策定している。

4年間を通じてつねに目差すべき最上位目標は、あくまでも、フェリス女学院の建学の精神である「キリスト教の信仰に基づく女子教育」と、教育理念「For Others」のさらなる具体化・推進である。

中期計画においては、次の4点を基本方針としている。「1. 『建学の精神』『教育理念』の明確化」「2. 安心・安全なキャンパスづくり」「3. 受験生・学生に支持される大学」「4. 大学の発展を支える組織体制の強化」である。

これら4つの基本方針のもとに、いくつかの中期目標とそれらに基づく具体的な中期計画（事業計画）を定めている。現在、高等教育再編委員会で検討を進めている大学グランドデザインは、2014年度中に方向性を固めることとしている。大学としては2016年度までの中期計画を定めているが、これに続く次期の中期計画は、グランドデザインの策定を受けて、それを達成することを中心とした計画となる。

なお、外部環境と大学に求められる社会的役割の変化の柔軟な対応を考慮し、毎年度中期計画（事業計画）の見直しを図っている。以下は、2014年度実施分の事業計画の抜粋である。

(1) 「建学の精神」「教育理念」の明確化に関する取組

大規模総合大学がスケール・メリットをいかした改革を進めるなか、本学のような小規模大学は「建学の精神」「教育理念」を明確に示すことで差別化を図り、特色ある教育によって、独自の役割とポジションを確立していくことが必要である。2013-2016年度の4年間では、「建学の精神」や「教育理念」をただ題目として論じるだけでなく、具体的な実践活動として展開し、その「良さ」や「意味」を学内外にアピールできる事業を積極的に展開していく。

- ① キリスト教精神/ For Others の実践
 - ・キリスト教研究所（仮）の整備
 - ・キリスト教に関わる科目の充実と教育プログラムの整備・推進
 - ・交流体験で学ぶ For Others
 - ・学内における宗教活動の位置づけの改善
 - ・東日本大震災被災者支援プログラムの実施
 - ・ボランティアに関する啓発・支援とセンター学生スタッフ育成プログラム
- ② 女子大の特色をいかした教育・事業展開
 - ・女子大ならではの教育プログラム推進とその長所の発信
 - ・ピアサポートの充実
 - ・帰属意識の涵養（自校教育）
 - ・読書運動プロジェクト
- ③ ブランドの構築
 - ・大学の教育研究に関する戦略的広報の展開
- ④ 中期計画に基づく教学改革の推進
 - ・全学的教育プログラムの構築・推進
 - ・英語英米文学科の教学改革プロジェクト
 - ・日本語日本文学科の教学改革プロジェクト
 - ・コミュニケーション学科の教学改革プロジェクト
 - ・国際交流学部の教学改革プロジェクト
 - ・音楽学部の再建計画の実行

(2) 安心・安全なキャンパスづくり

東日本大震災の経験を踏まえ、2013-2016年度の4年間は、首都圏直下型地震や地球的規模の環境変動からもたらされる自然災害を念頭におき、学生たちを安心して受け入れられる（子どもを安心して家から送り出せる）キャンパス環境の整備に取り組む。あわせて、食の安心・安全、持続可能な環境への配慮を行い、あらゆる面で安心・安全なキャンパスづくりを目差す。

- ① キャンパス環境の整備
 - ・エコキャンパスの推進
 - ・施設・設備の計画的な整備
 - ・図書館機器の整備・更新
 - ・教育研究システムの運営管理
 - ・学院基盤システムの運営管理
- ② キャンパスの安全確保
 - ・安心・安全なキャンパスづくり（大規模自然災害・防災対策、セキュリティ）
 - ・緊急連絡システムの運営管理
- ③ 食の安心・安全
 - ・安心・安全な食の提供
- ④ 学生生活支援体制の充実
 - ・バリアフリー化推進
 - ・奨学金施策の拡充
 - ・初年次一年間を通じた導入支援
 - ・規模、特性を活かした学生支援体制の構築
 - ・大学生活における心身の健康維持・増進支援
 - ・学生厚生施設・キャンパスアメニティの充実（2014年度のみ）
- ⑤ 地域連携の推進
 - ・山手の丘音楽コンクール
 - ・地域連携ボランティアプログラム
 - ・多文化共生社会に向けたボランティアプログラム

(3) 受験生・学生に支持される大学

18歳人口の減少期を目前に控えたこの時期、受験生・学生に真剣に向き合い、そのニーズにあった即効性のある事業を優先的に推進することが求められる。2013-2016年度の4年間は、従前どおりの事業を自動的に継続するのではなく、外部環境の変化と大学に求められる社会的役割の変化への柔軟な対応を考慮し、教学改革・学生支援・就職支援・国際化推進・施設設備改善などを積み重ねていく。在学生・保証人の満足度を高めることで、間接的・結果的に受験生からも支持される大学を目差す。

- ① 受験生の視点からの入試制度見直し
 - ・入試出願方法の見直し
 - ・適切な入試問題の作成
 - ・入試関連情報の有効活用

- ② 受験生への広報の強化
 - ・受験生を対象とした広報の充実
- ③ 教育の充実
 - ・外部資金を利用した授業の展開
 - ・プログラム制の導入と科目ナンバリング概念の導入
 - ・音楽学部の教育・研究環境の整備
 - ・社会変化に対応した「新しい時代の基礎教養」を目差して
 - ・環境教育の充実化を図るカリキュラムの整備
 - ・組織的なFDによる〈より〉フェリスらしい「健康・スポーツ」の構築
 - ・自発的学修者育成のための履修情報提供
 - ・語学教育の質を支える「担当者間コーディネイト」
 - ・英語教育の効果測定とカリキュラム改善
 - ・ICTを活用した授業への対応、教育環境の標準化
 - ・主体的に学ぶ力の育成～学生を鍛える大学へ～
 - ・学期制度の見直し
 - ・語学集中学習の仕組みづくり
 - ・学生のICTリテラシー向上支援
 - ・学修支援の場としての図書館機能の充実
 - ・学修支援システムの構築・運用管理
- ④ 学習支援体制の充実
 - ・新入生への学生生活導入支援
 - ・新入生への学習支援
 - ・学習支援の仕組みづくり
 - ・語学教育支援
- ⑤ キャンパスの活性化
 - ・正課外活動の活性化支援
- ⑥ キャリア形成支援の充実
 - ・就職支援の充実
 - ・アカデミック・スキル、ソーシャルスキル、職業観の育成
- ⑦ 国際化の推進
 - ・ Semesterアブロード
 - ・グローバル人材育成のための海外派遣留学促進
 - ・受入留学生を中心とした学内国際化推進
 - ・異文化理解を通じた国際交流による課外活動活性化
- ⑧ 研究活動の充実
 - ・研究支援の強化と学内体制の検討
 - ・機関リポジトリの運用

(4) 大学の発展を支える組織体制の強化

2013-2016 年度の4年間は、今後の大学の発展を支える組織体制の強化について集中的に取

り組む。教学の様々な戦略的事業を展開するにあたり、教員とともに大学運営の企画・立案をになう事務組織の職能開発の推進や適正な人員配置など、大学の組織体制の強化は重要事項である。次に、大学を支える様々なステークホルダーに対し説明責任が果せるよう、実質的な自己点検・評価の推進を継続して行う。さらに、中期計画と予算編成の連動により、経常的支出の抑制・戦略的事業に対しての重点的な予算配分を行うなど、大学財政の健全化を継続して図る。

- ① 大学組織の機能強化
 - ・ 大学組織再編に関する検討
 - ・ SD の推進
 - ・ ペーパーレス化の推進
- ② 財務状況の健全化
 - ・ 教育充実資金の拡充
 - ・ 業務効率向上のためのシステム開発
- ③ アカウンタビリティの確保
 - ・ 保証人に対する就職情報の説明
 - ・ 大学基準協会での認証評価受審と自己点検・評価の実質化推進
- ④ 同窓会・卒業生との連携強化
 - ・ 同窓会活動の支援
- ⑤ 奨学会との連携強化
 - ・ 父母等保証人との連携強化
 - ・ 奨学会活動の支援
- ⑥ 生涯学習の推進
 - ・ オープンカレッジの充実

東日本大震災から3年を経た今日、日本社会は何を学んできたのであろうか。人類の英知たる科学が私たちの生活を豊かにする一方で、その豊かさの中で「命の重み」、「生きる意味」、「社会のあり方」など、「真の豊かさとは何か」を見落としてきてはいないだろうか。

そうした中、2013年度本校は将来の長期的ビジョンとして、今後の教育方針となる「グランドデザイン」を作成した。それは、「変えることができないものは、それを受け入れる冷静さを、変えることができるものは、それを変える勇気を、そして両者を見極める知恵を」とのニーバーの祈りに通じるものであり、創立140余年を経た今、現代社会における本校の意義を見つめ直し、またその将来のあり方を方向付けるものもある。

「変えることができないもの」とは、創立時以来本校を貫いてきた「キリスト教信仰」と「女子教育」という二つの基盤であり、豊かなる人格形成のもとである「For Others」の思いであり、具体的な教育指針である、「キリスト教信仰」・「まことの自由」・「学問の尊重」の三つの柱である。

一方、「変えるべきもの」とは、次代を担い、切り拓く、高い矜持と豊かなる見識をそなえた主体的な女性の育成のための教育のあり方の絶えざる見直しである。具体的にはソフト面に関しては、2012年度から中学校全学年が、2013年度からは高等学校第1学年から順次改訂される新教育課程の適切な実施である。一方ハード面としては、2013年7月から着手した第二期工事である新体育館（2014年8月竣工）と新2号館（2015年7月竣工）の再建である。

このように今後の本校の教育方針の基本は「中高グランドデザイン」であり、その具体化こそ今の本校に求められている課題であり、「キリスト教」と「女子教育」という変わることのない神より課せられた使命（ミッション）に込めていくものである。学校生活は、2015年半ばまで工事による過渡期を迎えるが、その期間も変わることなく使命に込めていきたい。

以上のような観点のもと、2014年度に予定する取り組みは、次のとおりである。

(1) 教育基盤であるキリスト教教育の再確認

【当該事業の最終目標】

日々の礼拝並びに修養会などの各種宗教行事を通して、生徒一人ひとりに対してフェリスに学ぶ意義、すなわちキリスト教信仰に基づく自らの人格形成にあることの自覚を促す。

保護者に対しても、本校の教育機関としての意義と役割について十分な理解を得る。

【計画】

- ・生徒の奏楽奉仕参加に向けたパイプオルガニスト養成プログラムの継続実施
- ・校舎建設過渡期における状況を踏まえて、保護者の礼拝参加、聖書教室の充実

(2) 第二期工事の実施と財政基盤の充実

【当該事業の最終目標】

本校にとって校舎とは、生徒一人一人にとっての「学びの場」、「成長の場」、そして日々の「生活の場」である。その観点から、校舎並びに施設・設備は、本校の教育理念が具現化されたものであり、「中高グランドデザイン」に基づくそうした構想のもと、新体育館並びに新2号館は設計したものである。

完成の際には、これまではなかった施設・設備の整った教育環境を通して、生徒の自主的な活動を育むことができ、本校が新たに目差す独自のきめ細かい指導が可能となる。

【計画】

- ・新体育館の完成（8月竣工予定）
- ・新2号館建設工事（5月着工予定。2013年度内に現2号館解体工事開始）

（3） 新教育課程の実施とその対応（教職員体制も含む）

【当該事業の最終目標】

本校の教育課程は、学習指導要領に準拠するとともに、本校独自の教育として、広く深い教養を有し、しかも将来の高等教育等につながる学習に生徒が自主的に取り組めるようになることを最終目標とするものである。

新教育課程は、2012年度からの中学校の全面的な実施並びに2015年度の高等学校第3学年の完了に向けて順次実施してきているが、完成年度までには、年次進行に合わせた複数の教育課程が併存することになり、それらへの適切な対応が必須となる。新教育課程の特色は、将来の学問の基礎となるためにできる限り学ぶ範囲を広げ、しかも一つ一つを主体的に深く学んでいくという、従来の「教養主義」をベースに、あらたに「緩やかなコース制」を導入するとともに、本校独自の科目も設けた点にある。より具体的には、高等学校第2学年から選択科目の増加、開講人数の基準も可能な限り少人数に設定するなど、さらにきめ細かい学習内容となる計画である。

新教育課程への対応には、併せて、適切な人数の専任教員の確保が必須となる。本校の教育の担い手にふさわしい教員の採用、配置も計画する。併せて中高事務室を担う職員体制の見直しも検討する。

【計画】

- ・教務部並びに教育課程委員会によるシラバスの作成継続（2015年度までに完成予定）
- ・進路指導部企画の卒業生による進路のための講演などの継続実施とその充実
- ・2015年度以降を見据えた適切な人数の専任教員の確保並びに職員体制の検討
- ・教員の研鑽のために研修制度（国内並びに海外留学など）の見直し

（4） 安全対策の徹底

【当該事業の最終目標】

危機管理整備を継続して行い、安心して学べる教育環境を整える。併せて、学院本部と大学を含む山手キャンパス全体の連携を図り、必要に応じた合同の訓練実施を計画するなど、山手地区としての一体感を持った対応を目差す。とくに第二期工事期間中は、生徒の安全面にこれまで以上の配慮が必要となる。

また保護者への緊急連絡体制のなお一層の整備・充実を図り、迅速かつ正確な緊急情報の伝達体制を構築する。

【計画】

- ・過渡期の避難経路の作成と実地訓練の実施
- ・各種の防災並びに救急救命訓練の実施

(5) 教育情報の発信

【当該事業の最終目標】

外部へは、受験生に対する学校情報の発信として、学校説明会、学校見学会、フェリス祭などの告知並び様子の紹介などを予定している。

在校生の保護者には、リニューアルしたホームページを活用して、例えば、各種学校行事の予定や実施報告、さらには緊急時の学校からのお知らせなどを予定している。生徒の個人情報に最大限の配慮を払いつつ、ビジュアル的にも見やすいものを計画している。

本校の教育活動の正確な理解に向けて、きめ細かく的確な情報の開示・伝達に努め、適切かつ総合的な情報発信体制を確立する。

【計画】

- ・リニューアルしたホームページの活用
- ・受験生対象の学校見学会等の再検討

(6) 教育充実資金その他の募集活動

【当該事業の最終目標】

「中高グランドデザイン」に基づく本校の今後の教育活動を踏まえて、新入生の保護者に対して、施設・設備の充実と整備、更新に充当する資金を、教育充実資金として寄付を募る活動を展開する。寄付金は、第二期工事に伴う教育施設設備等の建設・建替・更新・整備等の充当資金とする。

【計画】

- ・2014年度目標金額 4500万円
- ・新入生（保護者）に対し、2度の協力依頼（継続）
- ・協力依頼・振込方法の検討（募集タイミング、寄付者の振込方法等）（継続）



学校法人
フェリス女学院

〒231-8660 横浜市中区山手町 178

TEL 045-662-4511(代表)

学院 HP 公開版